様式（第8条関係）

審 議 結 果

次の審議を下記のとおり開催した。

審議会等の名称	令和2年度 益田市男女共同参画審議会
開催日時	令和2年8月7日（金）午後1時30分から3時30分
開催場所	益田市役所 3階大会議室
出席者及び欠席者	○出席者 【審議会委員】片岡委員（会長）、羽柴委員（副会長）、吉松委員、福井委員、篠原委員、石橋委員、増野委員、山本委員 8名 【関係課】山本健康子育て推進監、田原人口拡大課長、塩満人事課長、桂木危機管理課長、又賀子ども福祉課長、盆子原子ども家庭支援課長、齋藤子育て支援センター長、桐木福祉総務課長、城市障がい者福祉課長補佐、山下高齢者福祉課長、岡崎産業支援センター長、棕木農林水産課長、中島美都総合支所地域振興課長、田原学校教育課長、大畑ひとつくり推進監（社会教育課長） 15名 【事務局】石川福祉環境部長、人権センター加藤主幹、中島主任、大石指導職員 4名 ○欠席者 原田利治委員、柳井直樹委員、小川律子委員 3名
議題	① 令和元年度事業実績及び進捗評価について ② 令和2年度事業計画について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0名
問合せ先	福祉環境部 人権センター 電話：0856-31-0412

経過

1 開会	
2 あいさつ	
事務局	会議の成立の報告 委員11名中8名の出席。規則第7条第2項に基づき本会議が成立
部長	新型コロナウイルス感染症の影響で様々な活動が自粛となり、新しい生活様式が求められ、生活不安やストレスの中からDV被害が懸念されるなど、コロナ禍の中、様々な問題が生じている。国の対策本部においては、橋本女性活躍担当大臣、内閣府特

	別担当大臣からすべての閣僚に対し、各種対策の実施に当たっては、負担が女性に偏りが生じたり、さらに女性が困難な状況におかれることがないように、施策が女性に与える影響を十分に考慮するように伝えられた。男女共同参画の推進に向けた国の動きでは、女性が活躍するための取組の基本目標の一つに2020年までに指導的地位を女性が占める割合を少なくとも30%程度にするとされていたが、達成が非常に厳しい状況にあることから、可能な限り早期にすることによって、達成年度の繰り延べの調整に入ったという報道があったところである。益田市においては、平成11年6月に制定された男女共同参画社会基本法に基づき、平成13年に第1次男女共同参画計画を策定した。現在、第3次計画では、「男女の人権の尊重」、「安心・安全な暮らしの実現」、「あらゆる分野における女性の活躍」、「男女共同参画社会の充実にに向けた環境整備」の4つの基本目標、8つの基本施策を基に基本施策を進めている。 本日の会議では、令和元年度の事業実績、進捗状況、令和2年度の計画について報告、また、今年度で第3次計画の期間が終了することから、第4次益田市男女共同参画の策定についての説明もさせていただきたい。
3	辞令交付 委員交代（任期満了）
4	自己紹介
5	会長・副会長選出 事務局の提案により、片岡委員が会長、羽柴委員が副会長に就任
事務局	会議録・審議会委員名簿等のホームページ掲載の承諾
6	議 事 ① 令和元年度事業実績及び進捗評価について ② 令和2年度事業計画について
会 長	基本目標Ⅰ 男女の人権の尊重について 項目1～7
委 員	進捗評価表の施策1で、「参加者の固定化や減少については、工夫を要する」とある。関心のある人は参加するが、ない人はスルーする。アンケートの9割近くが、関心が高まって、意義があったとなっており、主催者は理解してもらったと評価したのでは、今後きちんとしたものは出て来ない。もっと危機感をもってやり方を工夫していただきたい。
担当課	参加されない方にどう浸透していくかということが大きな課題である。色々な場面や組織を通じて、地域の中でも伝えあっていただけるよう働きかけていきたい。
会 長	今回コロナのこともあるので、講演会を開催しづらい状況もある。開催するだけでなく、広げることも啓発の一つである。これをきっかけにパターン化したものを変えるチャンスと思い、取り組むよう検討していただきたい。
委 員	項目3 評価・課題のところに「効果的である」と書かれているが、やって効果があったのか、それとも課題があったのか。
担当課	研修会や発表会への参加をもとに、先生方が指導していく中で効果的であったと捉

	えている。
会 長	評価としてのコメントであったということである。
委 員	項目4 デートDVを受けている生徒は今現在でもあるのではと思うが、人権センターだけで対応するのは大変だと思うので、他の関係機関と協力して、取り組んでいただきたい。
担当課	デートDVの講師の方が活動を辞められ、その後、各学校の教職員を対象に研修を実施している。学校の中で子どもたちにデートDVの防止を呼びかけることを推進している。昨年度は県主催の研修に参加を呼びかけ、参加校での実施もされた。引き続き継続していきたい。
会 長	基本目標Ⅱ 安心・安全な暮らしの実現 項目8～21
委 員	県でもデートDVの研修依頼を受け、実際に行ったこともある。昨年、1昨年で県主催で行った研修以外に、学校の方で研修会を行われた実績があるかどうか教えていただきたい。
担当課	学校でということにはなかったが、昨年度は、『いのち・愛・人権』展のDVDの視聴コーナーで、デートDVについてのDVDもあり、中、高校生のかなり多くの学生が、何か話しながら、デートDVのDVDを選んで視聴されていた。その姿からは関心があるのだと理解した。
委 員	項目12で、「相談者がワンストップで支援を受けられるように、可能な限りあんしん相談係が調整し、対応した」とある。相談者があちこち出かけて相談するのは大変なので、継続し、発展させ、相談者のよりよい受け皿を作ってほしい。
委 員	項目9 デートDVの研修会について、昨年11月の審議会の議事録を見た中で、担当者の方がこの研修は1年では難しいので3年位かけて理解して深めて欲しいという記載があった。今回の評価・課題のところでは、「学校関係者の出席がわずかで事前の周知が足りなかった」とあるが、3年位時間をかけて行っていくと言っているのに、周知が足りなかったというのは、取り組みの姿勢が足りないのではないかと感じたがどうなのか。
担当課	市の主催で行う予定だったが、県の主催の研修会となり、県の方から周知された。市からも、声かけは行ったが、結果的に参加者が少なかったことで、もっと積極的に周知すべきだったと思う。
会 長	教訓というか、今後よろしく願います。
委 員	項目8 評価・課題で、「街頭での呼びかけにより、女性に対する暴力防止に向けた社会的認識を高め、女性相談窓口の周知を行った。」とあるが、周知を行った結果の件数は分かるのか。
担当課	具体的な効果については、相談窓口の利用と関連しては把握していない。
委 員	人権擁護委員としても、困っておられる人はたくさんおられると思うが、中々相談に結びつきにくい。いい方法があれば教えていただきたい。

会 長	項目13 「児童・生徒の発達段階に応じ、性に関する事業の実施、性教育および人権教育に関する教職員研修の実施」とある。その結果としてどんな反応があったのか、これをもとに今後の進め方の参考にしたいので教えていただきたい。
委 員	授業としては、保健体育の授業と、昨年から導入された特別教科の道徳がある。保健体育については、特に小学校の高学年から中学校にかけて行っている。道徳の授業は事例のある教科書をもとにグループワークを行う。事例を見てどう思ったか、どうが正しかったか、というような意見交換を授業で行っている。反応という部分まで把握していないが、小中学校時代だけではなく、高校・社会に出ていく中で、まず、性を意識し始める入口のところで、固定観念だけではなく色々な考え方が存在すること、それぞれを尊重することが大事だと意識するような指導を先生方をお願いしている。
会 長	保健体育だけではなく、道徳の時間をとおして人権の観点から指導されているということを知った。今後もよろしくお願ひしたい。
委 員	実績報告の中では、「重要である」からどうなのかということを知りやすく書いていただきたい。
委 員	項目12 「適切な支援に努めていきたい。」とあるが、評価としての結果はどうだったのか教えていただきたい。
担当課	相談のあった事例については、ワンストップで継続支援し、関係機関との連携のもと安全に生活できるよう努めた。相談者に満足度までは確認していないが、支援はできたと思っている。
委 員	項目14 男性の参加率が低いというフレーズがある。情報共有としてだが、匹見では、昨年からタウンホールで100歳体操を行っている。非常に参加率が高いうえに、普段見かけない男性の参加も印象的だ。自分の健康に関心のある人は自発的に参加され、健康教室を楽しみにされている。健康教室に他のことも重ねての取組がされている。
会 長	ここに書かれている状況では男性の参加率が低いということであるが、取組によって、違う状況もあるということである。
委 員	項目17 「小中学校入学支度金」の人数が前年に比べて半減している。何か理由があるのか知りたい。
担当課	児童・生徒の全体数が減少した。特に該当者が少なくなった理由はない。
会 長	例年どおりということ。
委 員	項目19 「子育ての悩みを持つ家庭の交流の場として、事業を実施した。」とあるが結果についてと評価を教えてください。
担当課	事業として実施した中で、様々な交流ができたという評価している。
委 員	平成30年度からファミリーホームで「子育て短期支援事業」を始めておられると思う。この事業は、内閣府でも、来年の4月からは、里親等に直接委託できる仕組みになるようなホームページ上での発表があった。益田市では、今後もこの事業を広めてい

	くことと思うが、特に「要保護児童対策地域協議会」で、困っている家庭に特化した形で、利用料を抑えた形で展開されていることは、全県的にも、全国的にも画期的な取組だと思っている。ぜひ続けていただきたい。この事業を始められて、手ごたえや、利用について聞きたい。
担当課	平成30年10月から、始めている。利用の理由は、ひとり親家庭での出産、入院で子どもの養育ができない環境であるなど。その他、両親共々に子育てに疲れた、ひとり親で子育てに疲れた。ということで、地域で生活を続けていくために、時々休みながらレスパイト事業を利用された例が多かった。
会長	そういった家族利用ということが大切だと思われる。今後もぜひ発展させていきたい。今のレスパイト事業はどの項目に載っているのか。
担当課	この実績には、載っていない事業である。
会長	これは「男女共同参画計画」には非常に大事な事業であり、どこかに位置付けて是非載せていただきたい。計画に載せていないからということかもしれないが、今後必要な事業になるので、第4次ではぜひ検討しなくてはいけないと思う。
委員	項目16 課題のところは2点載せてあるが、地域包括支援センターの機能の何が評価ができないのか、「男女共同参画」の視点から教えていただきたい。
担当課	地域包括支援センターは平成30年に委託を行った。その評価は、現在、自己評価に留まっており、受け手側の評価のみで対応している。客観的な視点で相談された方、介護サービスを受けられた方、相手の視点に立った評価が必要な点から、評価のあり方が課題であると捉えている。
会長	基本目標Ⅲ あらゆる分野における女性の活躍 項目22～31
委員	項目23 管理職の女性の占める割合で係長級の割合が46.2%と前年よりも10%伸びている。何か変化があったのか、あれば引き続きやって欲しいし、今までの取組が実を結んだのか、その点を教えてほしい。
担当課	登用試験を実施しているわけではなく、女性職員の比率が昔より高くなり、係長級の女性が増えてきた。また、役職が上がることによる精神的プレッシャーなどのフォローも、男性も含めた課題だと思う。
委員	項目25 実績で、「活動回数76回」と随分減少しているが、これはコロナの影響で、活動回数・参加された大人が減少し、子どもだけの活動になっているのか。
担当課	継続しているが、今年度は活動の質を高めることに集中した。学校で行ったことを更に地域に繋げ、地域の中で行うということで、子どもたちの活動が高まるとともに地域の方の関わりが強くなったという報告を受けている。実態として満足感は上がっていると思う。
委員	現況の中で、地域の方に来ていただいて活動するのは、益々難しくなってくると思うが、どのような工夫をされているのか。
担当課	学校に地域の方に来ていただくという段階を超えて、学校の施設の中に公民館のよ

	うなスペースを作り、学校教育の場としてだけではなく、学校教育をやっていない時にも集まって活動作りをされている。子どもたちも自然に加わって、色々な世代が一緒になって行っている状況である。
委員	社会教育コーディネーターが初めて配置され、その方の努力の結果が結ばれたということか。
担当課	とても頑張っていた。地域の方々にしっかり繋がろうという意識がある。「豊川地区つろうて子育て協議会」が地道に繋がることで、学校の外でも、子どもたちを真ん中に据えてしっかり活動している。色々な大人の世代が活動に加わり、地域の力の結集の一つと考えている。
委員	地域の方の参加は、男女比でどのくらいか。
担当課	圧倒的に女性が多い。最初は、PTAのOBのお母さん方が、学校の調理室を自分たちの空間に改造され、ヨガとか講座をされた。OBの方が関わりを持っていただくようになり、女性の参加は多いと認識している。
会長	他の地域でも参考になる取組だと思うので、積極的にアピールしていただきたい。
委員	項目26 「協議会・委員会への女性の参加を積極的に進めていく」が課題だが、評価ではまだまだ足りないということか。
担当課	女性の参加が非常に少ない分野がある。役員改選、人事異動など機会をとらえ、女性の登用を、積極的に進めていきたい。
委員	項目27 「チラシを企業に送付し、情報提供を行った。」とあるが、まだ継続的な取組みとは思いますが、具体的にどのような結果が得られたのか。
担当課	「石西地域人権を考える企業等連絡協議会」を通じ、各組織から送付される女性活躍推進に関する情報提供をしている。結果として助成金制度を利用されたかどうかは、把握できていない。
委員	具体的な取組内容には、「採用者に占める女性比率などの状況を調査し…事業者を支援します」とあるが、実績のところでは、「チラシを送付し情報提供を行った」とある。採用者に占める女性比率、状況の調査をした結果を情報提供したと受け止めていた。そういう情報が具体的にあるのか。
担当課	産業分野については、具体的関わりが取れていない。あらゆる分野の人権啓発のひとつとして、産業分野に情報発信を行っている。状況を把握することは必要なことだと認識しているが、できていないのが現状である。
会長	基本目標Ⅳ 男女共同参画社会の実現に向けた環境整備 項目32～40
委員	項目36 「介護者同士の悩みや不安を共有することで、介護による孤独感を軽減し、心身ともにリフレッシュできる場となった。」とあるが、介護者の参加者の男女比はどのくらいか。
担当課	人数の把握はしているが、男女比の把握は行っていない。
委員	「リフレッシュできる場」とあるが、男性・女性一緒になって介護しないと精神的な

	ことや、肉体的な事が、大変になると思うので、男性の参加も促していただけたらと思う。
会 長	よろしく願います。
委 員	項目40 「ハザードマップの説明会を実施した」とあるが、どのような形でされたのか、詳しく教えていただきたい。
担当課	昨年新たにハザードマップを更新し、全戸配布を行った。全戸配布終了後、全地区に職員が出向いて説明会を実施した。
委 員	説明会には出席したが、ハザードマップに書いてある項目も紙面でいえば、10分の1くらいの大きさと、説明の内容もあまり記憶に残っていない。内容が皆さんに伝わっているのかなという疑問がある。
担当課	夜の集会で、短時間の設定の中、参加者の関心が、自分の家が浸かるか、裏山が崩れるかが多く、男女共同参画にまつわる視点を重点にとはならなかった。今後も随時要望に応じて説明会を行っていくので、指摘されたことを心掛けて行っていこうと思う。
委 員	災害においては、男女を問わず協力し合っていかなければいけない。中々経験も薄いので、いざ何かやろうとしても行動できないし、考えも及ばないこともある。それぞれの役割分担ができるよう、資料等を作成して配布していただければと思う。よろしく願いたい。
会 長	昨年の審議会でも、ハザードマップの作成に女性が関わっていたかが問題になったが。
委 員	項目38 「女性の視点について掲載するハザードマップの説明会を実施することで、避難所生活における女性への配慮について意識啓発を行うことができた。」とあるが、例えばどういうことが意識啓発できたのか。
担当課	防災訓練を実施して、その時には小学校の体育館において、段ボールベッドと間仕切りを設営し、プライバシーを守るという部分の勉強をしてもらって啓発を図った。
委 員	それは女性だけではなく、男性も必要なことである。女性への配慮というのはその他に特別なものはなかったのか。
担当課	プライバシーは、男性にも必要ではあるが、そういう部分だけではなくて、プライバシー以外にも女性の安全・安心のためには必要であるということで、検討している。
会 長	まだまだ女性の視点での災害対策というのは、どんどん議論が発展していかなければならない問題だと思われる。
議 事	②令和2年度事業計画について
委 員	項目3.4について 校内研修会の実施、校外研修会への参加等、積極的に取り組んでいるが、今年度はコロナの関係で、集合型の研修会ができない状況にある。今の時代にあった校内研修のやり方、市教委からのリモート伝達とかオンラインで情報を色々いただいでい

	るが、新しい形の研修会の持ち方について相談にのっていただきたい。 また、取り組まなければならない人権課題がたくさんある中で、新しい情報を得て必要な教育を推進していくという点で、更新されていく新しい情報をいち早く入手し、発達段階に対応し指導していく計画を組み合わせて行っていきたいと思う。新しい情報提供もお願いしたい。その方法として、学校に一斉発信という方法もある。校長会や各部会の個別の連絡ルートを利用していただければ、主旨等がしっかり浸透させられると思う。 最後に今日的課題として、ネットトラブルも学校で扱うことが多くなってきている。市教委からのバックアップで、情報モラル教育が進めやすくなっている。出前事業や、専門的な指導の機会を工夫していただきたいと思う。
担当課	市教委としては、男女共同参画の部分だけではなく、いじめや不登校課題に関する部分も含め、色々なトラブルが上がってきている。担当の指導主事が学校を回り、課題を聞き取り、対応策と一緒に検討し、指導している。 情報提供部分では、指導主事の訪問、その場に応じた対応策について県からの情報等を、校長会や連絡部会を活用するなどの効果的な方法を考えている。 情報モラルについては、ICT関係の指導主事を中心に、国内の情報モラルの権威のある方とパイプが繋がり、ネット環境のいい面、悪い面を考慮しながら指導している。県内の他の市町村に比べて、ネットトラブルは低い状況にあり、今後なくなる状況になればいいと思う。
委員	事業計画を見ていると、講演会・研修会等の開催を、随分の課が載せている。コロナの状況で、開催されない研修会があると思うが、開催されないから、このあゆみを留めていいかといえ、そうではないと思う。何かの形で今のあゆみを推し進めて行っていただけたらと切に願っている。
会長	非常に大きなポイントだと思う。よろしくお願したい。
委員	項目5 計画で、「全小中高学校で、『益田版カタリ場』を開催する」ということで、これまでも市内の大人の方を招いて色々子どもたちと語り合うという取組はよく存じている。この取組内容が、「固定的な性別役割分担意識の見直し等、男女共同参画に関する理解を深めるための取組を行います。」という目的において、これまでのカタリ場において、この具体的な目的を果たすため、どのような仕掛けをされようとしているのか、計画・予定があれば教えていただきたい。
担当課	小中高生は、毎年入れ替わっており、新しい人が来所し、関わった人の輪が広がっていると捉えている。もう一つは、カタリ場は、出会いの場であり、様々な年齢の人が色々な活動をする。自分のやりたいことにトライすることをおして、カタリ場が繋げる場となると捉えている。これからもしっかり取り組んでいきたい。
会長	「具体的な取組内容の固定的な性別の役割分担の見直し等」、それをどう繋げるような仕掛けがあるのかという質問だったが、具体的に例があるのか。
担当課	その例を具体的に取り上げて、また報告したいと思う。

委員	たくさんの事業計画があるが、高評価に結びつける成果が出るようにしっかりと取り組んでいただければと思う。
委員	項目25 自治会の関係で参加しているので、非常に関心が高いところだが、「情報提供することで機運醸成を図る。」とあるが、具体的に情報提供というのは、どういう内容のものを言っているのか。
担当課	今年度も関係団体の皆さんと相談しながらやっていきたいと思っている。例えば、地域の中で、女性の参画の40%以上をめざしていただきたいとか、それについてはこういった工夫をされることが可能であるといったようなことを、併せて情報提供できたらと思っている。わかりやすく届けられるものを人権センターと連携して作成したいと思う。
委員	地域活動にも女性の力が大切な大きな力となる。是非、女性の参加を高めていただけるよう、よろしく願います。
会長	コロナ禍で、例年通りにはいかないところがあると思う。それでも男女共同参画を推進していくというのは大事なことなので、協力しながら進めていきたいと思う。よろしく願いたい。
	議事終了
その他	①第4次益田市男女共同参画計画の諮問について
事務局	今年度をもって第3次計画期間が終了となる。今年度中に次期計画を策定することとなる。策定にあたっては、推進条例の規定に、審議会の意見を聞くこととなっており、本日審議会終了後、市長より審議会代表の片岡会長に諮問させていただく。今後、庁内で部会、委員会にて、計画の素案等を作成し、審議会に諮ることとなる。よろしく願いたい。
その他	②男女共同参画に関する市民の意識調査について
事務局	第4次益田市男女共同参画計画の資料とするとともに、今後の益田市の施策の充実を図ることを目的として、住民基本台帳から無作為抽出した満18歳以上1,000人を対象に意識調査を実施した。結果の集計・分析は、島根大学法文学部社会文化学科社会学研究室・片岡教授にお願いした。
会長	※資料に基づいて、今回の調査内容の特性や変化、5年前の調査との比較等について説明をいただいた。
事務局	実態調査の結果については、今後の計画策定の基礎資料となるものです。審議会委員の皆様には、この資料を参考にいただき、審議会としてのご意見をいただきたい。次回の審議会は11月を予定している。第4次男女共同参画計画について審議していただく予定。出席をお願いしたい。